

2022年度入学者受入れの方針に照らした大学入学者選抜の取組の適切性に関する検証（AP）

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学びの志ふり返り（学科／研究科専攻の入学者受入れの方針）」のデータを活用した検証です。学科の入学者受入れの方針については、本学ホームページの「教育方針」（下記の URL）をご覧ください。

<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

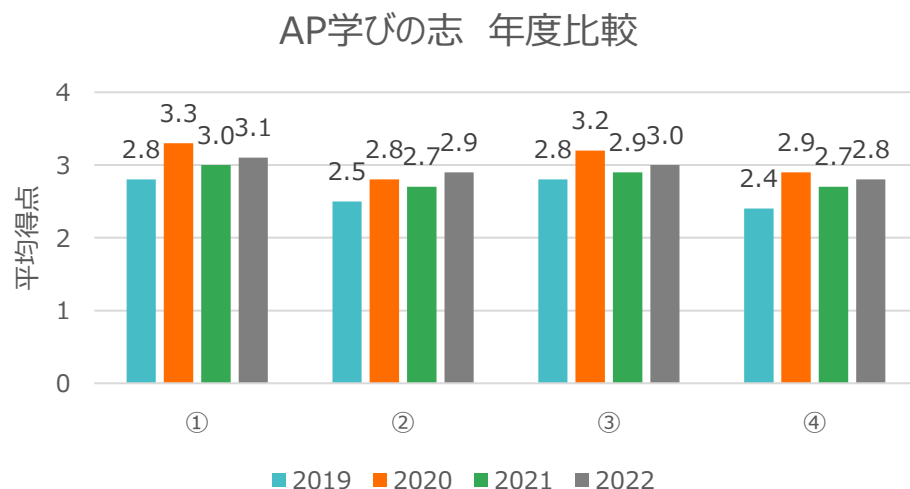
学科・研究科専攻名 社会福祉学科

アドミッション・ポリシーに基づき「学びの志ふり返り」として、以下に示す4項目について5段階ルーブリック評価検証を行いました。

回答者は（1年生）333人（回答率82.4%）で、2021度の246人（回答率61%）よりも21ポイント増加しました。なお、2020度はコロナ禍の影響もありわずか25人（6%）でした。参考資料：2019年度（169人：39%）、2018年度（242人：51%）

以下に示す結果（図）は、各項目5段階（1～5点）の年次比較を示します。

- ① 私は、人間や社会に対する関心と探求心に富む人である
- ② 私は、社会に貢献する意欲を持っている人である
- ③ 私は他者とともに考え、ともに活動することに喜びを見いだしている
- ④ 私は、社会福祉の理論（知識）と実践を融合させ、社会福祉学について深めている



今年度結果を、過去3年間の平均値と比較し低いもしくは変化なしの場合は、課題と言えます。但し、一昨年度データは回答率6%であったため参考にとどめ、その他のデータとの比較を行いました。

【考察】

年次比較は、①～④のいずれの項目もほぼ横ばい傾向にありました。

今年度は、昨年度以上に対面授業の割合が増えました。そのため、1年次のリエゾンゼミⅠの演習内で自己評価の入力を行うことができ、過去4年間で最も高い回答率を得ることができました。昨年度の回答と比べると、①～④のいずれの項目も多少ではありますが点数が高くなっていました。また、5段階評価の3点前後（中間点2.5以上）にあることから入学者選抜の取り組みは適切に行われていると思われます。

項目間比較では、②と④がやや低い評価となっています。これは、1年次の学びが座学中心になっている可能性があります。この点については、社会との関りを通じて社会福祉の知識を実践で試すことを積極的に行えるようにする必要があり、今後の課題といえます。